

令和7年11月の解説（府県天気予報）

【11月の天候状況】

上旬は、北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わったが、北日本日本海側では低気圧や低気圧通過後の一時的な冬型の気圧配置による寒気の影響で、曇りや雨または雪の日が多くなった。1日には急速に発達した低気圧の影響で、北日本と東日本日本海側を中心に11月としては記録的な大雨が降った所があり、北日本では大荒れの天気となった所もあった。これらのことから、旬降水量は北日本太平洋側でかなり多く、北・東日本日本海側では多かった。また、旬間日照時間は北日本日本海側で少なかった。沖縄・奄美でも天気は数日の周期で変わったが、前線や湿った空気の影響で、旬降水量は多かった。

中旬は、数日の周期で、低気圧が発達しながらサハリン付近を通過し、通過後には北日本を中心とした西高東低の冬型の気圧配置となった。冬型の気圧配置が強まつた18日には、青森県酸ヶ湯では積雪差日合計が76cmとなり、1979年の統計開始以降11月としての多い記録を更新した。一方、東・西日本は移動性高気圧に覆われやすく、低気圧、前線や寒気の影響が小さかった。これらのことから、旬降水量は北・東日本太平洋側と東・西日本日本海側でかなり少なく、旬間日照時間は北日本太平洋側と東日本日本海側でかなり多かった。沖縄・奄美は、期間前半には、暖かく湿った空気に覆われやすく、台風第26号や停滞前線などの影響を受け、記録的な大雨となった所もあった。このため、旬降水量はかなり多かった。下旬は、西日本を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた所が多かった。このため、旬間日照時間は、北・東・西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多く、東日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。移動性高気圧に覆われやすく、寒気の影響を受けにくかった東日本日本海側では、旬間日照時間平年比が145%となり、1961年の統計開始以降、11月下旬として1位の多照となった。旬降水量は、北・西日本日本海側、北・東・西日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。一方、日本の北では数日の周期で低気圧が通過し、北日本を中心に低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだ日があったため、旬平均気温は、北日本でかなり高く、東・西日本で高かった。

【11月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より3ポイント高い90%で、明後日予報は例年値より5ポイント高い89%となった。地方別の適中率では明日予報は全ての地方で例年値を上回った。また明後日予報は北海道地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値を上回った。

同じく17時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.1°C小さい1.2°Cで、北海道、東北地方では例年値より大きくなつたが、その他の地方では例年値と同じか例年値より小さくなつた。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.1°C小さい1.1°Cで、全ての地方で例年値と同じか例年値より小さくなつた。

(注) 例年値は2015年～2024年の平均値です。

【1月の天気予報の利用にあたって】

1月は、日本海側の地方では、冬型の気圧配置となって風が強まり、雪や雨の日が多くなります。日頃から大雪や暴風雪に備えて下さい。また、太平洋側の地方では晴れる日が多くなり、空気が乾燥して火災が起きやすくなる一方で、日本の南海上を低気圧が通過する場合などには雪が降り、少しの積雪でも交通機関の運行などに大きく影響することがあります。

天気予報とともに、大雪や暴風雪についての最新の警報や注意報、早期注意情報、気象情報、また乾燥注意報の発表状況に留意して下さい。